

シト信シ、茲ニ此短篇ヲ載ス。原文ハ兀トてゐる阿氏 (Alonso Englebert Taylor) ガ『たあで、いぐにんぐほすち』ニ記載セシモノノ由ニテ、なりんぐ及ビれいごらあ両氏ノ編纂に成る『國家社會主義』*中ニ引用シ居ルモノニテ、茲ニ載ス所ハ其一節ノ抄譯テアル。

(一)

獨逸政府ハ開戦後間モナク學者ヲ集メテ一ノ委員會ヲ組織シ、食料問題ニ關スル戦時ノ政策ヲ決定スルニ必要ナル諸般ノ事項ノ調査ヲ命ジタ。普通ニえるつばへる委員會ト稱セラレルモノガ即チ其レデアルガ、此委員會ハ、其後數ヶ月ヲ費シテ、獨逸ニ於ケル食料ノ生産、配給及ビ消費ニ就イテ、詳細ナル研究ヲ遂ゲタ。

委員會ハ先ヅ、平時ニ於ケル獨逸ノ食料供給ヲバ、其出所ヲ標準トシテ、左ノ諸項ニ分類シタ。

- 一、獨逸國內ノ肥料ニ依リテ生産セラルル植物性ノ食料
- 二、輸入肥料ニ依リテ生産セラルル植物性ノ食料
- 三、人間ノ食料ト爲シ難キ種類ノ植物性ノ飼

獨逸ノ戦時社會主義

河上肇

余ハ本誌前號ニ、中立國ノ一タル丁抹ノ戦時社會主義ニ就テ短文ヲ掲載シタリシガ、本號ニハ更ニ、主要交戦國ノ一タル獨逸ノ戦時社會主義、殊ニ其食料政策ニ就テ、之ガ一斑ヲ記述セント欲スル。尤モ此問題ニ就テハ、渡邊博士ノ「歐洲戦爭ト獨逸ノ食料政策」ト題スル二百餘頁ノ著述アリテ、既ニ其委細ヲ盡シアランドモ、其概略ヲ數頁ノ間ニ紹介スルモ亦無用ナラザルベ

* Walling, State Socialism, 1917, pp. 591-604.

料ニ依リ生産セラルル動物性ノ食料

四、人間ノ食料ト爲シ得ル種類ノ飼料ニ依リ

生産セラルル動物性ノ食料

五、輸入飼料ニ依リテ生産セラルル動物性ノ

食料

六、河川、湖水及ビ近海ヨリ得ラルル動物性

ノ食料(魚類)

七、隣接セル中立國ニ於テ天然肥料ニ依リ生

産セラルル植物性ノ食料

八、隣接セル中立國ニ於テ輸入肥料ニ依リ生

産セラルル植物性ノ食料

九、隣接セル中立國ニ於テ人間ノ食料ト爲シ

難キ天然ノ秣ニ依リ生産セラルル動物性ノ

食料

一〇、隣接セル中立國ニ於テ人間ノ食料ト爲

シ得ル種類ノ飼料ニ依リ生産セラルル動物

性ノ食料

一一、隣接セル中立國ニ於テ輸入飼料ニ依リ

生産セラルル動物性ノ食料

一二、隣接セル中立國ニ於テ淡水及ビ鹹水ヨ

リ得ラルル動物性ノ食料

一三、直接ニ海外ヨリ得ラルル植物性ノ食料

一四、隣接セル中立國ヲ經由シテ海外ヨリ得

ラルル植物性食料

一五、直接ニ海外ヨリ得ラルル動物性ノ食料

一六、隣接セル中立國ヲ經由シテ得ラルル動

物性ノ食料

一七、直接ニ海外ヨリ得ラルル熱帶食料(珈

琲、香料、砂糖等)

一八、隣接セル中立國ヲ經由シテ得ラルル熱

帶食料

委員會デハ、以上ノ分類ニ本イテ、平時ニ於

ケル食料ノ供給高ヲ調べ、然ル後戰時ニ於テハ

其供給ガ果シテ如何ナル状態ヲ呈スルニ至ルカ

ヲ査定シタ。若シ獨逸ガ絶對的ニ封鎖サレタト

シタナラバ、以上各種ノ食料ノ中、一五、一七

九、一〇、一一、一二、一三、一四、一五、一六、一七

一八ノ各項ハ、凡テ跡ヲ絶ツ筈デアルガ、併シ

隣接セル中立國自身ノ利益ヨリスルモ、獨逸ノ

絶對的封鎖ハ行ハレル筈ハ無イカラ、七、八、九

一〇、一二ノ四項ニハ若干ノ望ヲ屬スベキデア
ル。此等ノ方面ヨリスル食料ノ供給ガ、戰爭ノ
爲メ如何ナル程度ノ影響ヲ蒙ルベキカハ、勿論
正確ニ豫想サルベキ事柄デハ無イガ、委員會デ
ハ成ルベク其ヲモ推算シタ。此ノ如クニシテ、
戰時獨逸ニ於ケル食料ノ供給高ヲ調査シタル後
ハ、進ンデ其需要額ヲ調査シタ。

先ツ獨逸ノ人口ヲ六千八百萬ト見積リ、小兒
ハ之ヲ年齡別ニシテ其數ヲ計算シ、成人ハ之ヲ
男女別ニシテ其數ヲ計算シタ。而シテ成人ノ男
子一日所要ノ熱量(食物ノ分量ヲバ其食物ガ人
間ノ體內ニ入リテ發スル熱量ニテ計算ス)ヲ三
千カロリート定メ、之ヲ一〇〇ト立ツレバ、女
子ノ所要熱量ハ八五ト定メ、其外小兒ノ所要熱
量ハ年齡ニ應ジテ各々割引ヲ爲シ、此ノ如クニ
シテ換算セシ結果、國民所要ノ食料ハ、成年ノ
男子五千百八十二萬二千九百八人分ノ食料ニ相
當スト推定シタ。

委員會ニテハ、此ノ如クニシテ食料ノ供給額
ト其所要額トヲ査定シタル後、若シ獨逸國民ニ

シテ食料ノ消費ヲ生理的の必要ノ程度ニ止メ、且
其生産ヲバ平時ノ状態ニ維持スルヲ得ルナラバ
獨逸國民ハ縱ヒ封鎖セラルルモ、食料ノ窮乏ヨ
リ免レ得ルモノナル事ヲ確メタ。只問題ハ、食
料ノ浪費ヲ制止シ、且其生産ヲ維持スルコトニ
懸ル。是ニ於テ委員會ハ、戰時ノ食料問題ニ就
テ、左ニ列擧スルガ如キ方策ヲ實行スルノ必要
アリトシタ。

吾々ノ消費スル食料ハ蛋白質、脂肪、炭水化
物ノ三分ノ一乃至二分ノ一ハ其ノママ排泄サレ
テ居ルカラ、平生吾々ハ必要以上ノ消費ヲシテ
居ルノデアアルガ、斯カル浪費ハ此際之ヲ避ケン
ケレバ勿ラヌ。然ラズンバ、食料ハ不足スルノ
虞ガアル。

總ベテ奢侈的ノ生活、殊ニ公ノ場所ニ於ケル
飲食物ヲ取締ルベキコト。

平時ニ於ケル生産額ハ必ズ之ヲ維持スベキコ
ト。此目的ヲ達スルガ爲ニハ、農村ニ於ケル勞
力ヲ調節スルコト、十分ニ肥料ヲ使用スルコト
適當ニ輪作ヲ講ズルコト、貯藏法ニ注意スルコ

ト等ガ必要デアル。

荒蕪地ヲ耕作シテ生産ノ増加ヲ圖ルベキコト。

蔬菜ノ耕作ヲ獎勵シ、他方國民ヲシテ成ルベク肉食ヲ節シ、穀物及ビ蔬菜ヲ使用スルニ至ラシムベキコト。

黑麥麵包ノ使用ヲ獎勵シ、小麥麵包ノ使用ヲ制限スベキコト。

兔、山羊、羊ノ育成ヲ獎勵スベキコト。

食料ノ輸出ヲ嚴禁シ、隣接諸國ヨリノ輸入ハ之ヲ獎勵スベキコト。

澱粉及ビ酒類ノ製造、其他工業上ノ用途ニ向ツテ穀類ヲ使用スルコトニ制限ヲ設クベキコト。

工業用ノ酒精製造ノ爲メ澱粉類ヲ使用スルハ、之ヲ重要ナル用途ニ限定スベキコト。

石鹼ニ關スル浪費ヲ制限スベキコト。

家畜數ハ國內ノ飼料ニテ養ヒ得ル程度ニ止メ、之ニ超過セル部分ハ此際全部屠殺スベキコト。且之ニ依ツテ得ラレタル肉類ハ、將來ノ消

費ノ爲メ貯藏シ置クベキコト。

麵包ト爲シ得ル穀類ヲ家畜ノ飼料ニ充ツルハ、之ヲ嚴禁スベキコト。

馬鈴薯ヲ家畜ノ飼料ニ充ツルコトニ制限ヲ設クベキコト。

乳牛ヲ必要ノ程度ニ減少シ、且牛乳ヲ以テ豚ノ飼料ト爲スヲ禁ズベキコト。

大麥及ビ燕麥ヲ家畜ノ飼料ト爲スコトニ制限ヲ設クベキコト。

糖菜ヲ飼料ト爲スヲ取締ルベキコト。
食料ハ全國民ニ平等ニ配給スルコト。

以上ガえるつばつへる委員會ノ報告ノ大要デアルガ、何人モ之ヲ一讀スル時ハ、委員ガ能ク其人ヲ得テ、彼等ガ如何ニ國民全體ノ利益ヲ第一ノ問題ト爲セシカラ、理解スルニ足ルデ有ラウ。委員會ハ、國民全體ガ一樣ニ生活必需品ヲ享受スルコトヲ以テ第一要件ト爲シ、此目的ノ爲ニハ、一部ノ生産者又ハ商人ノ利益ヲ犠牲トスルモ已ムヲ得ズト爲シタノデアアル。例ヘバ彼等ハ、家畜ノ數ヲ國內ノ飼料ニテ養ヒ得ル程

(二)

度ニ止メンガ爲メ、乳牛ハ其十分ノ一、豚ハ其三分ノ一ヲ、直チニ屠殺スベシト爲シタノデア
ルガ、コレナドハ頗ル思切ツタル提案デアツ
テ、其事ガ農業者階級ノ利益ニ反セシハ、言フ
迄モ無キコトデアル。勿論生産者ガ有利ニ其生
産ヲ繼續スルハ甚ダ重要ナコトデアルガ、併シ
其ニモ増シテ尙重要ナルハ、獨逸内ニ於ケル各
個人ガ其營養ヲ維持スル爲十分ノ食料ヲ得ルコ
トデアル。若シ食料ガ不足スルナラバ、之ガ欠
乏ハ各階級ノ者ガ一樣ニ分擔シナケレバ勿ラ
メ。此ノ如キ考ガ、委員會ノ根本方針ト爲ツタ
譯ナノデアル。

昔カラ露國ニハ其外患ヲ防グ爲ニ、寒威將軍、
距離將軍、沼澤將軍トイフ三大將軍ガ居ルト稱
セラレテ居ルガ、其意味ニ於テハ、今日獨逸國
民ノ生活ヲ脅シツアル者ハ、封鎖將軍、凶作
將軍、失政將軍ノ三者デアルト言ハナクレバ勿
ラス。然ルニ失政將軍ノ侵入ニ關シテハ、獨逸
ハ初メヨリ十二分ノ警戒ヲ加ヘタ、ト言ツテ可
イ。

えるつばへる委員會ノ提案ニ本キ、開戰初年
度内ニ行ハレタ主要ノ政策ハ二ツアル。第一ハ
穀類ニ關スル政策デアリ、第二ハ家畜ニ關スル
政策デアル。

穀類ニ關シテ實行サレタル政策ヲ列舉スレ
バ、總ベテノ穀類ヲ差押ヘテ之ヲ國家ノ管理ノ
下ニ置キ、(勿論凡テ之ヲ引上ゲテ國立ノ穀倉ニ
收藏シタト云フ譯デハ多イ、生産者ニ其ノママ
保管サセテ置イテ、必要ニ應ジ之ヲ徵收シタモ
ノデアル)、各個人一日分ノ麵包ノ消費量ヲ限定
シ、麵包用穀類ハ之ヲ家畜ノ飼料ニ供スルヲ禁
ジ、又之ヲ工業上ノ用途ニ供スルニモ一定ノ制
限ヲ設ケ、燕麥ヲ釀酒用ニ供スルコトハ之ヲ二
分ノ一ニ限定シ、おーと麥ハ軍馬及ビ其他ノ役
馬ノ爲ニ全部徵收シ、燕麥及ビ玉蜀黍ヲ飼料ト
爲スコトニ一般制限ヲ設クル等ノコトヲシ
タ。又麵包用穀類ノ粉碎程度ヲ規定シ、黑麥ノ
如キハ少クトモ其八割二分ニ達スルマデ之ヲ粉
碎スベキモノト爲シタ。(此ノ如クニシテ糟ヲ少

クスル時ハ、多量ノ穀粉ヲ得ラルル上ニ、營養價ハ却テ増加スルノデアアル。

次ニ家畜ニ關シテハ、えるつばつへる委員會ノ提案ニ本キ、一九一五年(開戦ノ翌年)ノ一月ヨリ四月ニ亘リ、先ツ乳牛及ビ豚ノ數ヲ減少スルコトニ着手シタ。豚ハ當時ノ現存數ノ約三分ノ一、乳牛ハ約一割——實數ニテ約百五十萬頭ニ上ル——ヲ屠殺シタ。然ルニ同年ノ三月、豚ノ屠殺ガ猶行ハレテ居ル最中、馬鈴薯ノ貯藏高ノ調査ガ濟ムダガ、其ニ依ルト之ガ現在高ハ豫期ヨリモ少カツタ。ソコデ豫定ヨリモ尙多クノ豚ヲ屠殺スルコトニシタノデアアルガ、更ニ二ヶ月ヲ經テ馬鈴薯ニ關スル第二ノ調査ガ完成シテ見ルト、第一ノ調査ハ間違デアツテ、豚ノ屠殺數ヲ増加スル必要ノ無カツタ事ガ分ツタ。從ツテ馬鈴薯ハ非常ナル廉價ニテ市場ニ賣出サレ、大部分ハ腐敗シテ仕舞ツタ。

牝牛ハ一匹モ屠殺セズ、犢ノ屠殺數モ平常通りデアツタ。ソウシテ羊ヤ山羊ハ、寧ロ其保存ヲ圖ルコトニシタ。併シ前述ノ如ク、一時ニ牛ヤ

豚ヲ殺シタ爲ニ、一九一五年ノ前半期ハ自然肉類ノ消費ガ殖エタ。尤モ最初ノ計畫ニ依ルト、一時屠殺シテ得タ牛豚ノ肉ハ、之ヲ將來ノ爲ニ貯藏シ置ク積リデアツタノデアアルガ、貯藏法ガ惡カツタ爲ニ、其大部分ハ腐敗シテ全然損失ニ歸シタノデアツタ。

(三)

一九一六年ニハ戰時食料局ナルモノ組織セラレ、同局總裁タル食料配給管理官ハ其管轄内ノ事項ニ就キ絶對的權力ヲ有スルコトト爲リ、獨逸帝國内ノ各個人ハ、差當リ戰時中ハ、全ク營業ノ自由ヲ失フコトニ爲ツタ。今此新組織ノ權限内ニ屬セル事項ヲ列舉スレバ、即チ左ノ如クデアアル。

土地ノ生産物ハ、植物性ノモノタルト動物性ノモノタルヲ問ハズ、全部之ヲ差押ヘ得ルコト。生産者階級ノ使用ノ爲ニ生産者ニ屬スベキ生産物ノ分量(例ヘバ種子料トシテ農業者ニ屬スベキ農産物ノ分量)ハ、官憲ノ決定ニ本グコト。總ベテノ家畜ノ飼料ハ、一定ノ規定ニ依リテ

之ヲ制限スルコト。

農作ノ面積及ビ輪作ヲ取締リ得ルコト。

肥料ノ使用ハ、之ヲ國家管理ノ下ニ置クコト。

農業者ガ自家用ノ爲ニ留保スル農作物ノ分量ヲ限定スルコト。

穀類ノ粉攪、穀粉ノ成分、麵包ノ成分、穀類ノ成分ハ、凡テ規定ニ依リテ之ヲ定ムルコト。

酒精飲料ノ醸造ニ使用サルベキ穀類ノ分量ヲ制限スルコト。

土地ノ生産物ヲ材料トスル工業品——例ヘバ酒精、石鹼、澱粉等——ノ製造ニ制限ヲ加フルコト。

家畜ノ處分ニ關スル規定ヲ設ケ、食料用トシテ家畜ヲ屠殺スルコトハ、之ヲ中央ノ管理ノ下ニ置クコト。

牛乳ノ使用法ニ關シ規定ヲ設クルコト。

總ベテノ食料品及ビ飼料ノ輸出及ビ輸入ハ、之ヲ中央ノ管理ノ下ニ置クコト。

食物ヲ取扱ヒ得ル商人ノ數ヲ限定スルコト。

食料品及ビ飼料ノ販賣ニ從事シ得ル卸賣商人

及ビ小賣商人ノ數ヲ制限シ且特定スルコト。

消費者ニ依ル小賣商人ノ選擇ニ一定ノ規定ヲ設クルコト。

食物ノ販賣ニ關スル營業ノ時間ヲ限定スルコト。

卸賣商人及ビ小賣商人ノ請求シ得ル價格、並ビニ其レノ事業ニ於ケル商人ノ數ニ就テ、一定ノ規定ヲ設クルコト。

一個人ノ所有ニ屬シ得ル各種食料品ノ分量ヲ制限スルコト。

料理屋、食堂、旅館ニ於ケル献立表ハ、一定ノ規定ニ依リテ之ヲ制限スルコト。

全國民ノ一日分ノ食糧ニ就キ、其種類及ビ分量ヲ限定スルコト。即チ食料品ノ種類ニ應ジテ一日、一週、又ハ一ヶ月内ニ消費シ得ル分量ヲ限定シ、且幼兒、小兒、成人、力役ニ從事スル勞働者、病人等、各個人ノ事情ノ異ルニ應ジテ各々之ニ一定ノ差異ヲ設クルコト。

管理官ノ任務トスル所ハ、食物ノ供給及ビ農業者ニ配當サルベキ飼料ニ就キ平等ヲ維持スル

コト、浪費ヲ根絶スルコト、交通運輸ノ敏活ヲ圖ルコト、人爲ニ本ク諸物價ノ騰貴ヲ防止スルコト、總ベテノ食物ノ價格ヲバ之カ生産費ノ増加及ビ勞賃ノ騰貴ノ程度以上ニ騰貴セシメザルコト、配給及ビ消費ノ上ニ絶對的平等ヲ維持スルコト等ノ爲メ、十分ナル施設ヲ怠ラヌコトデアル。而シテ規則面ノ上ヨリ言ヘバ、無條件ノ徵收ヲ認メタ方面モアリ、一定ノ條件附キニテ徵收ヲ認メタニ過ギヌ方面モアル、又無制限ノ管理ヲ認メタ方面モアリ、一定ノ制限内ニ於ケル管理ヲ認メタニ過ギヌ方面モアル。乍併、實際ノ結果カラ言ヘバ、食物管理官ノ權力ハ事實絶對的ノモノデアル。

扱テ以上述べタルガ如キ新組織ハ、一九一六年六月一日ニ、食物管理官ノ任命*セラルト同時ニ、實施セラルル事ト爲リ、カクテ獨逸ハ此新組織ノ下ニ、嘗テまるくすヤらつさるノ夢想セシ以上ノ共產主義國ニ移ツタノデアル。勿論ソハ、内ヨリノ共產主義デハ無クテ、外ヨ

リノ共產主義デアル。ソハ他愛主義ノ表現デハ無クテ、軍事上ノ必要ニ迫マラレテ實現サレタル、個人並ビニ階級ノ商業的利益ノ單ナル壓服デアル。而カモ斯カル組織ノ實施ハ、人間ハ官僚的共產主義ノ實行ニ對シ如何ナル反應ヲ爲スニ至ルベキカニ就キ、一個ノ實驗的教訓ヲ與フルニ足ルモノデ有ラウ。吾人ハ刮目シテ姑ク今後ノ成行ヲ觀ント欲スル。

(附記)新着ノ American Labor Yearbook
1917-1918 ニハナホ其後ノ事ヲ略説ス。併セ抄録セント欲セシモ、俄ニ病ヲ得テ、今果ス能ハズ。

* Adolph von Batocki 之ニ任セラル